

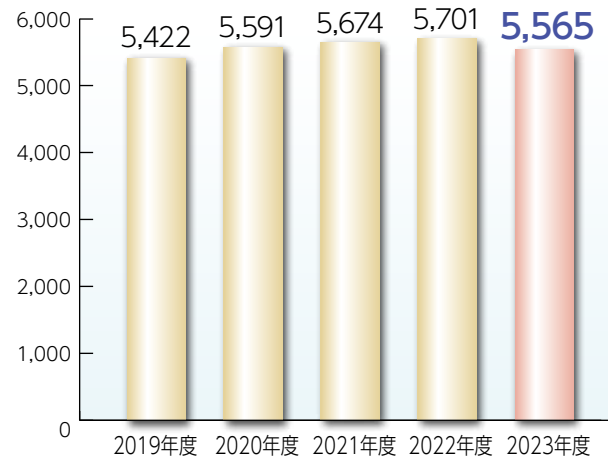
2023 年度の事業概要

2023 年度は中期経営計画『～地域の未来のために～持続可能性の追求』の2年目として、計画完遂に向けて全力で取り組みました。基本方針を①強い経営体質の追求②リレーションシップの追求③組織力・人材力の追求④マネー・ローンダリング及びテロ資金供与対策への対応とし、リレーションシップのもと、活気ある未来を共に目指し、持続可能な地域の明日に繋げるため、それぞれの施策を積極的に推進いたしました。

預 金・積 金

地道できめ細かな営業活動を通じ、お客様との絆を深め、ボーナス預金や定期積金、年金口座の募集を行いました。預金残高は対前期末比 136 億円減少し、5,565 億円となりました。

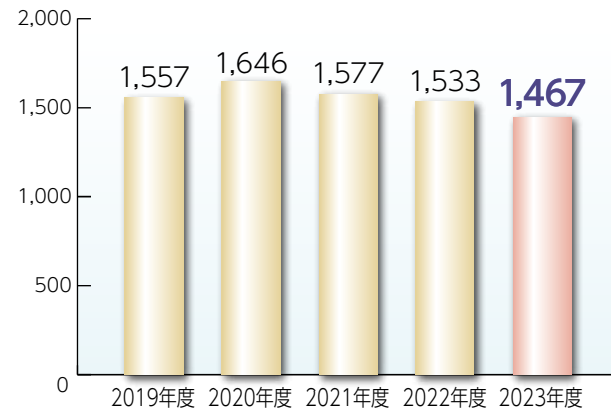
▶ 預金残高の推移 (単位：億円)



貸 出 金

事業者の皆さまには様々なニーズにお応えした融資商品の提供と資金繰り支援に積極的に取り組み、個人の皆さまにはライフステージに応じた各種ローン商品の提供に組みましたが、不安定な経済情勢の中にあつて資金需要は低調で、貸出金残高は対前期末比 66 億円減少し、1,467 億円となりました。

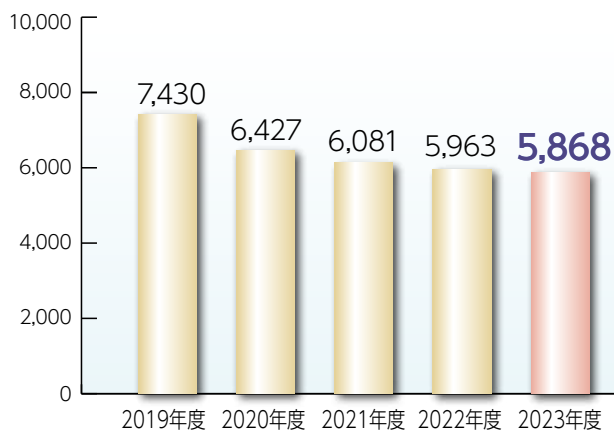
▶ 貸出金残高の推移 (単位：億円)



損 益

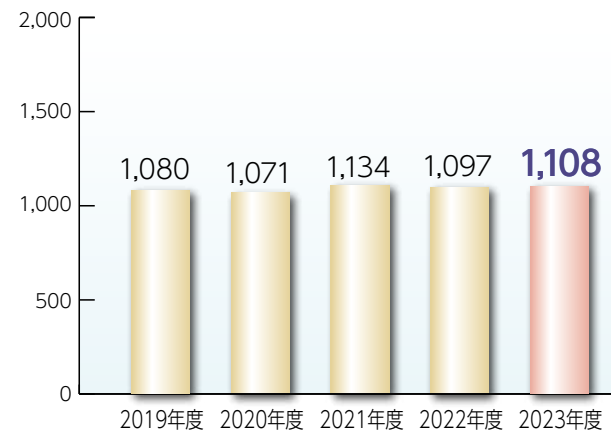
超低金利局面の長期化等により、貸出金利息や有価証券利息配当金等が減少したものの、経費削減に努めたこと等から、1,108 百万円の当期純利益を計上することができました。

▶ 経常収益の推移 (単位：百万円)



貸出金利息や有価証券利息配当金等の減少により、経常収益は微減となりました。

▶ 当期純利益の推移 (単位：百万円)

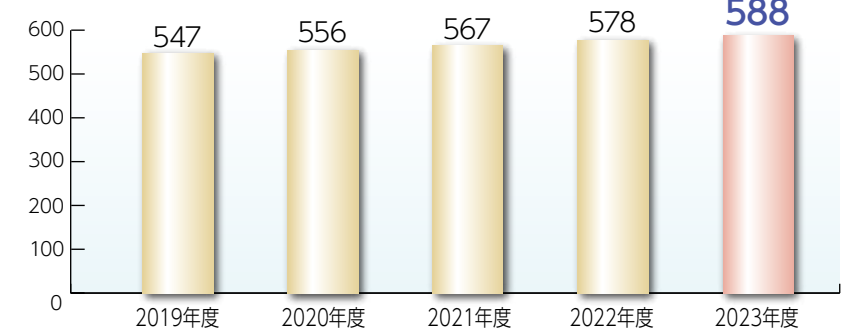


厳しい収益環境のなかではありましたが、経費節減等の取り組みもあり、1,108 百万円の当期純利益を計上することができました。

自 己 資 本

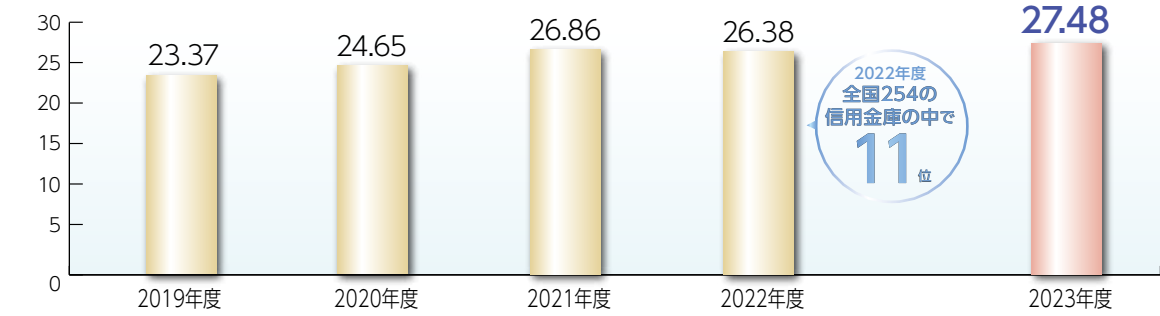
当金庫の健全性・安全性は引き続き高い水準を堅持しており、お客様からの普通出資金や内部留保の蓄積により自己資本比率は 27.48%となりました。今後も、堅実経営を基本として、一層強固な財務体質の構築を目指してまいります。

▶ 自己資本額の推移 (単位：億円)



自己資本額は、当期純利益として 11 億円を計上したこと等により、対前期比 10 億円増加し、588 億円となりました。

▶ 自己資本比率の推移 (単位：%)



自己資本比率は金融機関の健全性を示す重要な指標のひとつで、国内金融機関は4%以上が求められていますが、当金庫は基準を大きく上っており高い水準の健全性を維持しています。

主な経営指標の推移

(単位：百万円 %)

		2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度
利 益	経常収益	7,430	6,427	6,081	5,963	5,868
	経常利益	1,512	1,531	1,596	1,538	1,573
	当期純利益	1,080	1,071	1,134	1,097	1,108
残 高	出資総額	1,188	1,166	1,164	1,162	1,157
	出資総口数 (千口)	2,377	2,332	2,329	2,325	2,315
	純資産額	57,791	58,025	56,277	51,412	50,393
	総資産額	606,877	668,041	674,098	627,861	612,898
	預金積金残高	542,218	559,182	567,407	570,184	556,579
	貸出金残高	155,796	164,605	157,765	153,372	146,738
有価証券残高		204,424	221,753	230,196	221,430	220,600
単体自己資本比率		23.37	24.65	26.86	26.38	27.48
出資配当率		6.0	4.0	4.0	4.0	4.0
出資 1 口当たりの配当金 (円)		30	20	20	20	20
役員数 (人)		15	14	14	14	14
	うち常勤役員数 (人)	10	9	9	9	9
職員数 (人)		325	322	315	297	277
会員数 (人)		33,716	32,573	32,462	32,268	31,963

(注) 総資産には債務保証見返勘定を含んでいます。